



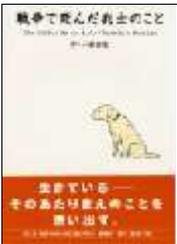
花園大学

教員 おすすめ図書

2018 MARCH 新入生歓迎号

花園大学の先生が選んだ、皆さんにぜひ読んで欲しい本のリストです。コメントを付けて、図書館1階の「おすすめ図書コーナー」に配置してあります。貸出することもできます。

花園大学情報センター（図書館）
v.7.0 2018 MARCH



戦争で死んだ兵士のこと

小泉吉宏作

メディアファクトリー 2001.12

第21代 学長 丹治光浩

命の重み、そして共感

<請求記号>

726.5/Ko 38

“今はのどかな森の中の湖のほとり、”
“ひとりの兵士が死んでいる。”という劇的なエピローグから始まります。わずか20数ページの絵本ですが、人生について深く考えさせられる物語です。著者も述べているように「これはせんそうのはなしではありません」。私はこの本を共感性の説明に使っています。あなたは、この物語から何を学びますか。



戦前日本のポピュリズム：日米戦争への道

筒井清忠著

中央公論新社 2018.1

文学部 仏教学科 佐々木閑

<請求記号>

中公新書/2471

今の日本は、国際関係の中でかなり苦しい状況に置かれている。その原因をたどれば、日中戦争、そして日米開戦という愚かな選択に行き着く。ではなぜ一億もの人間が寄り集まっていながら、そのような愚かな選択をしてしまったのか。本書は、「皆が集まって、非理性的な方向に突っ走る」現象を、事例を引きながら明確に分析していく。ポイントは「マスメディアの浅薄さ」である。そしてそのような、「浅薄なマスメディアに引きずり回される一億の日本人」という構図は、実は今も変わっていない。戦前日本のポピュリズムを分析する本書は、そのまま、現在日本のポピュリズムを映し出す鏡になっているのである。

廣松渉
世界の
共同主観的
存在構造

世界の共同主観的存在構造

広松渉著

勁草書房

1972.10

文学部 仏教学科

中島志郎

<請求記号>

134.94/H 71

河原町にあった京都書院の二階で上梓されたばかりのこの書を手にした時の震撼を今もよく覚えている。世界の共同主観？的？存在構造？黒光りする鋼鉄の扉に顔からぶつかったような、取り付く島もない書名の峻拒ぶりだった。それから三条蹴上「カルコ」の西日の差す窓際で、固唾を飲んで頁をめくっていた。京都書院もカルコも、いまは痕跡もないセピア色の追憶の一コマだけど、それは私には読書を超えた決定的な「経験」だった。廣松渉はその筋では偉名とどろく存在、その後の廣松渉の疾風怒濤の活躍も周知のところだ。すっかりその役目も終わったかというこの数年、富の偏在や格差社会への批判、それを掲げた2016年アメリカ大統領選(予備選挙)のサンダース現象など、アメリカですら資本主義の限界を自覚しつつある。資本主義の克服は地球環境や国際紛争とも別問題ではない、そしてその遥か先では仏教とも無縁ではない。それはもう政治的な対立を超えて、最大多数の最大幸福という倫理的公平をめぐる、人類の智慧を賭した21世紀の喫緊の課題であること、やはりピケティや水野和夫氏の一冊も読めばわかることだ。本書は哲学、特に認識論を軸にした専論の書だが、あえて宣言すれば21世紀の『善の研究』となる資格を有する書である。西田における『善の研究』のごとく、「廣松哲学」その後の展開の萌芽とヒントは本書にある。方法としての「現象学的還元」に範をとることも西田の姿勢に通じる。和辻哲郎「間柄」や木村敏「あいだ」といった概念にも通じる関係＝縁起論的な構図は仏教と親和的であることも周知に属する。誰でも解る書ではないが、

認識論から先の資本主義克服の課題まで、体系を構築してゆく強靱な思惟の到達点とはいかなるものか、その短い生涯とともに人が思惟で立つことの矜持と強さと、さらにある種、美しさを見た思いがする。この書を語れば尽きないが、最後に廣松渉の生涯に比して齢だけは越えてしまった我が身を顧みて慙愧の念とともに、形見とて何かのこさむの心境でこの書を紹介して、少し早い惜別の辞とする。



見よ見よ：若き人びとへ

盛永宗興著

禅文化研究所

1994.3

文学部 日本史学科

鈴木康子

<請求記号>

189.78/Mo 57

盛永老師は、1986～94年まで本学の学長を勤めた方です。本書の内容は、学長として学生に講義したものを編集したもので、人間の悩みに対する老師の考えを率直に語っています。私は、この本に偶然出合って、この本を開いてみると、老師の心の奥深さ、やさしさを感じられ、老師のやわらかな魂に触れる思いがしました。そして、こんな素晴らしいお坊さんが本学の学長をされていたことを心から誇りに思ったのです。人生は、何かに気づくか気づかないかで、大きな差がつかます。よき本、そして人との出会いをたくさんして下さい。



ジョゼフ・フーシェ : ある政治的人間の肖像

シュテファン・ツヴァイク著 高橋禎二, 秋山英夫訳

岩波書店

1979.3

文学部 日本史学科

中野渡俊治

<請求記号>

岩波文庫/赤-437-4

フランス革命期の「政治的人間」ジョゼフ・フーシェ。彼はフランス革命、その反動期、ナポレオン帝政期、王政復古期を、忠誠と裏切りを繰り返して生き残りました。しかし最後に、見えない、思いがけない存在が立ちはだかります。彼は完璧な人間ではありません。意外なところで落とし穴にはまることもあります。人間というもの、それほど一面的な存在ではないのです。20世紀前半に活躍したオーストリアの作家であるツヴァイクの、このフーシェ伝は、彼の複雑な人間像を、対象から離れた冷静な眼で、そして少しだけ暖かい眼で描いています。司馬遼太郎氏や永井路子氏もその名を挙げる、伝記文学のお手本のような作品です。



わかる・身につく歴史学の学び方

大学の歴史教育を考える会編

大月書店

2016.11

文学部 日本史学科

平井上総

<請求記号>

201/D 16

日本史・東洋史・西洋史の研究者によって書かれた本であり、大学で学ぶ歴史学とはどのようなものか、どのように学べばいいか、研究はどうやってするのかまでわかりやすく解説してくれています。入学したての時期から、卒業論文を書く4回生の時期まで、幅広く役に立つでしょう。



赤狩り：THE RED RAT IN HOLLYWOOD 1～

山本おさむ著

小学館

2017.11～

文学部 日本史学科

菅修一

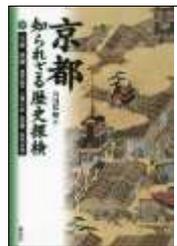
<請求記号>

Q778.2/Y
31/1-

図書館司書資格課程の講義ではアメリカ図書館協会の「図書館の権利宣言」について学ぶ。ナチス・ドイツの焚書に対抗して誕生した。1948年には、東西冷戦下、「赤狩り」の嵐が吹き荒れるアメリカの図書館において知る自由と図書館で働く図書館員を擁護するために「図書館の権利宣言」は改訂された。と、ここまでは図書館概論のテキストに掲載されている知識である。で、その「赤狩り」はどのようなことだったのか。以前、本学で図書館司書資格課程を担当された廣庭基介先生は図書及び図書館史の講義で「赤狩り」はハリウwoodsの映画関係者もターゲットにした、と話された。本書は、その「赤狩り」をハリウwoodsの映画関係者に関して描くコミック本である。FBIの動き、仲間を売り渡す者など人間の動きも多角的な側面から描く。恐るべきコミック作品である。作者はどれほどの文献を読み込んで、この作品を書いたであろうか。HUMICには吉村英夫著『ハリウwoods「赤狩り」との闘い』(大月書店 2017)*1など関連書籍も所蔵されている。ぜひ、皆さんの読みを進めていくて欲しい。

* 1: <778.253/Y 91>

吉村英夫著『ハリウwoods「赤狩り」との闘い：『ローマの休日』とチャップリン』大月書店 2017



京都知られざる歴史探検 上・下

山田邦和著

新泉社

2017.10

文学部 文化遺産学科

竹内亮

<請求記号>

216.2/Y 19/1,
2

著者は京都で生まれ育った京都都市史研究の第一人者で、2006年まで本学教授として考古学を担当。京都の随所に存在する歴史遺産の中から、従来は見過ごされてきたような歴史や、思いがけない場所に隠れた史跡などを、最新研究成果も取り入れて丁寧に解説、ありきたりの観光書とは一味異なる個性が魅力。現地の案内・地図・写真をふんだんに盛り込んだ全頁カラー刷で、ガイドブックとしても至便。本書を片手に京都の歴史散歩へ飛び出してみよう。



素晴らしいアメリカ野球

フィリップ・ロス著 中野好夫, 常盤新平訳

新潮社

2016.5

文学部 創造表現学科 浅子逸男

<請求記号>

新潮文庫/む-6-4

四十年ぶりの出版である。親本は集英社版『世界の文学』から刊行。翻訳はそのまま柴田元幸による注がついて昨年刊行された。原題は“The Great American Novel”。アメリカは新興の国である。文化伝統などというものはヨーロッパに比べたら無いに等しい。アメリカの小説家はつねに「素晴らしいアメリカ小説」(あるいは「偉大なるアメリカ小説」といべきか)を夢想していた。すでにあるGreat American Novel——ヘミングウェイ、フォークナー、ホーソン、メルヴィル、etcによって書かれた小説——もあれば、これから書かすべき小説、つまり自分が書く小説も。そこに、この小説があらわれた理由がある。

「スミティと呼んでくれ」と、この小説は始まる。ここに注がついた。Call me Smittyは『白鯨』*1の出だしのCall me Ishmaelを踏まえたのだと。『白鯨』はまさにGreat American Novelだ。しかもIshmaelは旧約聖書に登場するイシュマエルに由来する。

そこで『白鯨』を開いてみれば、「ナサニエル・ホーソンに」という献辞が目飛びこむではないか。『素晴らしいアメリカ野球』には「これはタフな姐ちゃんたちのことを書く本ではない。ナット・ホーソンはその昔そういう本*2を書いた」という箇所がある。これだけでも吹き出しそうになるのに、「ヘスター・プリンはたしかに「タフな姐ちゃん」と言える精神的な強さを備えている」という注をつけた。今回の注により、本文のおもしろさがじつに生き生きと伝わってきた。

* 2: <岩波文庫/赤-304-1>

ナサニエル・ホーソン著『緋文字』1850年刊 (八木敏雄訳『岩波文庫』所収 岩波書店 1992年)



兼好法師：徒然草に記されなかった真実

小川剛生著

中央公論新社

2017.11

文学部 文化遺産学科 山田崇仁

<請求記号>

中公新書/2463

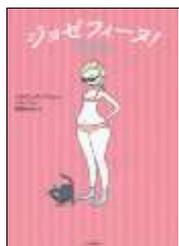
兼好法師伝の全面的見直しを図る契機となった研究者による一冊。ターゲットとなる人物の素性を洗うために、丹念に既存の史料の流伝を追い、より良質の史料から再度組み立て直す。上質の文献批判に裏打ちされた説得力のある議論が構築されている。日本史の資料批判的アプローチと、日本文学の作者への探求という両方の面からの良書。同じ作者の『新版 徒然草 現代語訳付き』(角川ソフィア文庫/角川学芸出版、2015年)*1も併せて読みたい。

* 1: <角川ソフィア文庫/A-311-1>

兼好法師 [著] 小川剛生訳注『新版 徒然草：現代語訳付き』KADOKAWA 2015

* 1: <908/Ka 92/7>

ハーマン・メルヴィル著『白鯨』1851年刊 (阿部知二訳『河出世界文学全集第7巻』所収 河出書房新社 1989)



ジョゼフィーヌ!

ペネロープ・バジュー著・絵 関澄かおる訳

DU BOOKS

2014.12

文学部 創造表現学科 秦美香子

女子にオススメ、あるあるマンガ

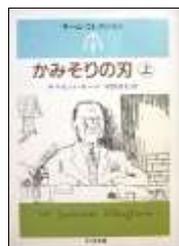
フランスの女性アーティストが描いた、独身女子の日常をテーマにしたマンガです。色彩やキャラクターの描き方がおしゃれでかわいくて、内容も共感できるのではないかと思います。これを読んで海外マンガに慣れたら、次は同じ作者の『エロイーズ』*1、『キュロテ』*2もぜひ読んでみてください！

* 1: <Q726.1/B 14>

ペネロープ・バジュー, プレ著 関澄かおる訳 『エロイーズ : 本当のワタシを探して』 DU BOOKS 2015

* 2: <Q280.4/B 14>

ペネロープ・バジュー著 関澄かおる訳 『キュロテ : 世界の偉大な15人の女性たち』 DU BOOKS 2017



かみそりの刃 上・下

サマセット・モーム著 中野好夫訳

筑摩書房

1995.2

社会福祉学部 社会福祉学科 福富昌城

<請求記号>

ちくま文庫/も-12-3, 4

「なにをしにだね?」「生きるためにです」「どんな風にして?」「つまり、平静と、忍耐と、憐れみと、無私と、そして節制をもってなんです」

主人公はラリーという青年。第一次大戦に従軍し、無事帰還したものの、戦友の死の経験を機にラリーは世俗に背を向け、神や善悪、人生の目的を考え、さまよう。そんなラリーが辿り着いたのが上記の言葉。

ラリーと彼を取り巻く人物達の生き様を通して、生きることを語ろうとしたのが本書です。小説の最後に、エリオットは社会的地位を、イザベルは財産を、グレイは金のある職を、ソフィーは死を、そしてラリーは幸福を獲たと、シニカルに語って小説を閉じているところも、モームらしい。

なお、本書は1946年に映画化され、1984年にはビル・マーレイ主演でリメイクされています。



精神に疾患は存在するか

北村俊則著

星和書店

2017.6

社会福祉学部 臨床心理学科 小海宏之

<請求記号>

493.7/Ki 68

現在、主流となっている精神医学における範疇的診断方法の弊害について改めて学ぶために留まらず、生物学、統計学、脳科学、法学など、さまざまな視点で深く考えさせられる本だと思います。これから精神保健福祉士、社会福祉士、公認心理師、臨床心理士を目指す学生や院生には、是非、じっくりと読んで欲しいと思います。



子供の世界子供の造形

松岡宏明著

三元社

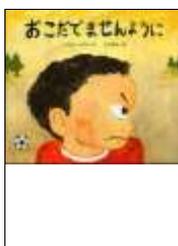
2017.2

社会福祉学部 児童福祉学科 北村眞佐美

<請求記号>

376.157/Ma 86

子どもの造形活動を通して、子どもが思いを寄せて表現した作品をどう理解するか、その活動過程での試行錯誤、思考力、判断力をどのように捉えることが良いか。子どもの造形活動が幼児教育の中で重要であることを様々な子どもの絵やエピソードで紹介されています。保育者として、大人として、子どもの世界を理解するうえで子どもの作品の見方を深める必要があります。本書は、その根源的な子どもの造形活動について述べられています。



おこだでませんように

くすのきしげのり作 石井聖岳絵

小学館

2008.7

社会福祉学部 臨床心理学科 橋本和明

<請求記号>

726.5/Ku 93

ADHDおよび学習障害の発達障害を有する主人公の小学生男児はいつも叱られてばかりであるが、内心では褒められたい、認められたい思いが強い。そんな彼が七夕のお願いに書いた内容と、それへの先生やお母さんの反応に、涙してしまう。発達障害児の心理がこの絵本に見事に描かれているので、必読してほしい。



冠詞と基本動詞がわかれば、英語がわかる

永本義弘著

南雲堂

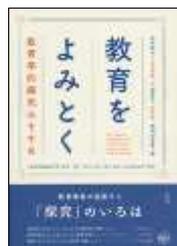
2012.6

文学部 外国語教育課程 有吉淳一郎

<請求記号>

835.28/N 15

「春が来た」「こんな春は初めてだ」「春が一番好きだ」を英語で言うと？それぞれ、Spring has come.、We've never had a spring like this.、I like the spring best.となります。そう、同じ「春」という語'spring'について、theやaが付いたり何も付かなかったりと、三者三様…。theやa、他にも基本動詞(giveやhaveなど)の使い方について、分かりやすく説明されています。ぜひ一読を！



教育をよみとく：教育学的探究のすすめ

田中耕治 [ほか] 著

有斐閣

2017.4

文学部 教職課程 中善則

<請求記号>

371/Ta 84

教員を目指す学生は、ぜひとも読んでください

本書は、教員を目指す学生に向けて、丁寧にわかりやすく、これから学ぶべき指針を示してくれるものです。

「教師をめざすあなたへ」という章では、「教師の仕事」、「教わる立場から教える立場へ」のようなタイトルで、「教師入門」として。また、「探究の営み」という章では、「問いをたてる」、「調べる」、「フィールドに行く」、「学び合う」、「深める」、「論じる」のようなタイトルで、高校までとは違う、大学の学び方についてのガイド、という性格を持っています。

私たち教員も、皆さんの夢に向っての指導を全力で行います。学生の皆さんは、ぜひ、この本を読んで、私たちと教育のあり方について語り合ってみませんか。そんな日を楽しみにしています。